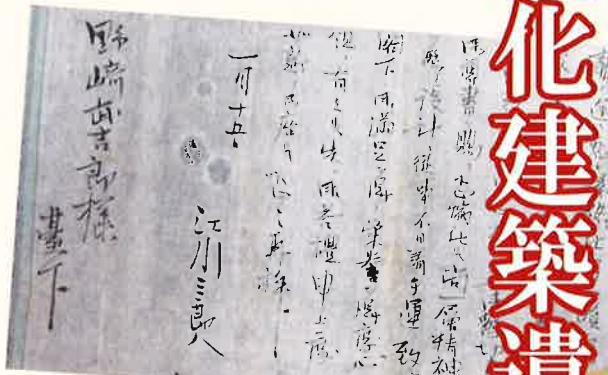




旧遷喬尋常小学校



野崎武吉郎宛江川書簡  
(野崎家塩業歴史館所蔵)

天才建築技師

# 江川三郎八 II

近代化建築遺産をめぐって



金光学園記念講堂及び格天井



金光教御靈地鳥瞰図（金光図書館所蔵）



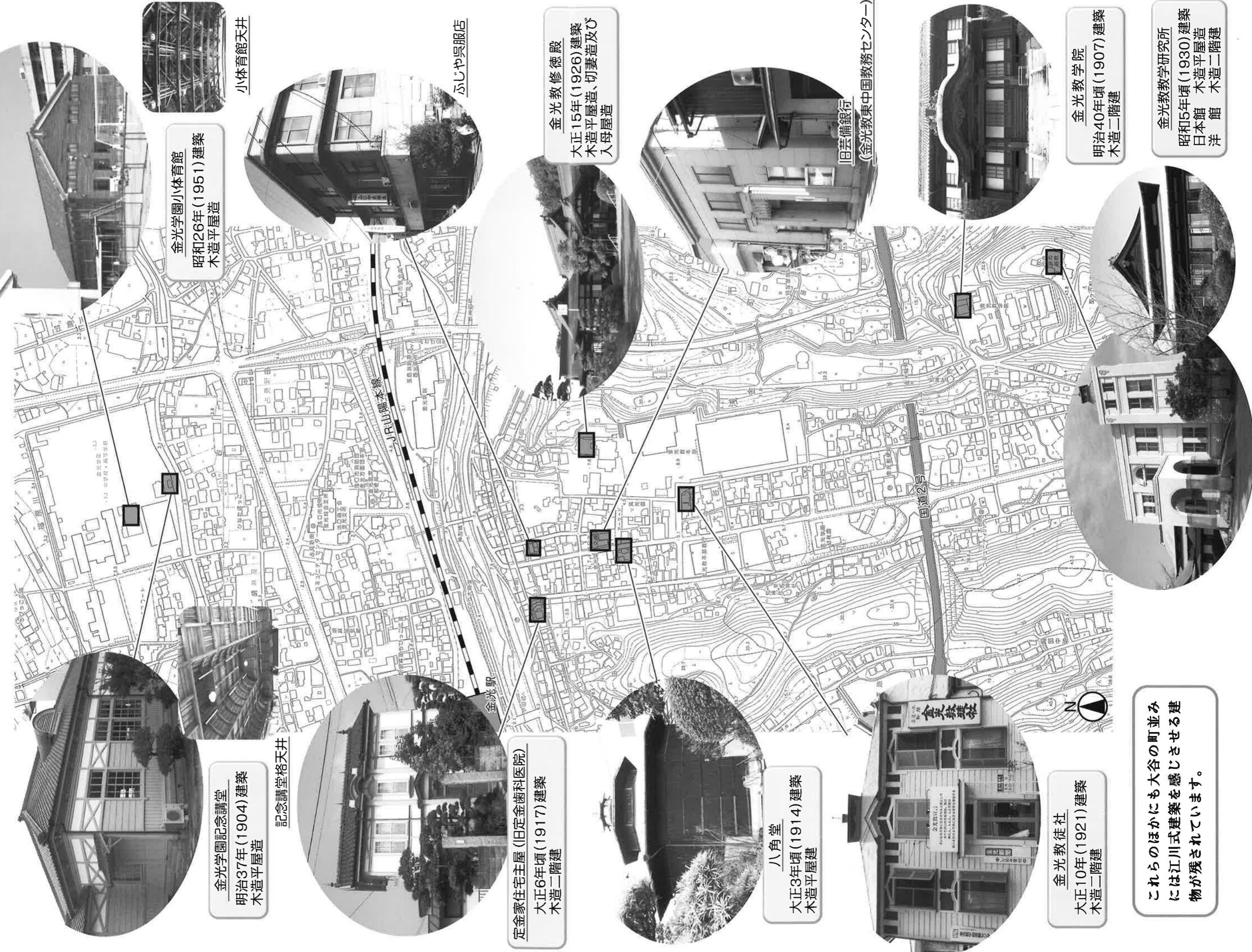
児島郡立商船学校図面  
(野崎家塩業歴史館所蔵)



## 江川三郎八と浅口地域

江川三郎八は、岡山県工手として赴任以降、県内で数々の公共機関や学校などの設計を手がけました。明治37年(1904)に私立金光中学(現・金光学園)の設計・建築にたずさわり(金光学園記念講堂は国登録有形文化財)、明治43年(1910)には金光教大教会控所・付属神舎の建築顧問に任命され、金光教関係施設や大谷地区の建築設計を担当したようです。県職員を退職後は、金光教の嘱託技師として、また個人的にも浅口地域の数々の建築物を設計しています。

# 金光地域の江川式建築～大谷地区周辺～





## 江川 三郎八 えがわ さぶろうはち

万延元年(1860)10月10日～昭和14年(1939)1月17日

会津若松(現・福島県)生まれ。明治20年(1887)に福島県庁の建築技術者として15年間勤務したのち、同35年(1902)、岡山県技手に転任。県庁内唯一の建築技術者として、議会議事堂や郡役所、警察署をはじめ膨大な数の公共建築の設計や工事監督を担当しました。また、県下の市町村から委嘱を受けて、数多くの小学校や幼稚園の設計をしました。

県職員退職後は、金光教本部の嘱託技師となり、火災後の本部復興に尽力するとともに、県内各地の商業建築や住宅の設計にも多数たずさわりました。

### 江川建築の特徴

江川建築の特徴は、まず外観です。壁面に筋交いを見せたハーフティンバーや横・縦の羽目板、蛇腹胴で構成する明治期、そして下見板張り(横羽目板)によるややシンプルな大正期以降に二分される、いずれも一目で分かる巧みなデザインにあります。しかし江川本人が最もその特徴として自認していたのが内部のトラス構造の小屋組で、橋梁の設計で得たノウハウと工夫により、大講堂など柱のない大空間を有する建築物を実現しています。



総社市まちかど郷土館



倉敷館



作州民芸館



旧吹屋小学校本館

### ◎江川建築の指定・登録文化財

名 称	所在地	建築年	指定等
旧遷喬尋常小学校	真庭市	明治40年(1907)	国重要文化財
旧旭東幼稚園園舎 「八角園舎」	岡山市	明治41年(1908)	国重要文化財
旧吹屋小学校本館	高梁市	明治42年(1909)	県指定文化財
金光学園中学高等学校記念講堂	浅口市	明治37年(1904)	国登録有形文化財
閑谷学校資料館	備前市	明治38年(1905)	国登録有形文化財
総社市まちかど郷土館	総社市	明治43年(1910)	国登録有形文化財
倉敷市歴史民俗資料館	倉敷市	大正4年(1915)	国登録有形文化財
永井家住宅主屋 (旧永井歯科医院)	和気町	大正5年(1916)	国登録有形文化財
倉敷館	倉敷市	大正6年(1917)	国登録有形文化財
定金家住宅主屋 (旧定金歯科医院)	浅口市	大正6年(1917)	国登録有形文化財
作州民芸館	津山市	大正9年(1920)	国登録有形文化財



旧旭東幼稚園園舎



倉敷市歴史民俗資料館

発行日：平成26年10月25日  
発行：浅口市教育委員会  
浅口市立金光歴史民俗資料館  
〒719-0104  
岡山県浅口市金光町占見新田790-1  
TEL 0865(42)2845